

『井戸』 一斉学習①

この井戸のイメージを話し合う

Cs 各自で自由読み（声小さい）

智士 朗読（まだたどたどしい）

T もう読めない字はないやろ。もういつべん、ゆっくりでいいから、ていねいに読んでみ。

じゃ、もう一度時間をあげますから、「私は、ここを読むとこういう井戸の様子がかんできた」「こんな感じがする」というのを、自分でつくりなさい。その時、この言葉から、そういう感じがする、という言葉に線を引いておきなさい。

じゃ、3分ほど時間をあげますから、始めなさい。

C 作業

T だいたいいいですか。

じゃ、先生がゆっくり読みます。

「芦原の小学校は、丘の上にあったから、井戸がずいぶん深かった。水の面まで、十間ちかくあると云った。」

Cs 読む（声はつきり出ている。）

勇也、智士最後まで読んでいる。

T おそい人の方がいいんですよ。はやく読んだって何も頭にうかばないでしょ。

（智士読み終わる）

今日勉強することは、ここには、芦原の小学校の井戸の様子がかいたるでしょ。その井戸はどういう井戸なのかということを含んで出し合いながら、この井戸の様子を思い浮かべてみようと思います。

力 普通の井戸でも深いけど、十間もあるで、深い上にもっと深いでよ、すごいと思う。

勇也 ぼくはめずらしいと思う！

T うん。どういふこと。

勇也 なんか、井戸がずいぶん深かってよ、みえてるやん。ほんで、初めて見るようにめずらしかったん

T 勇也がめずらしい。力が、ふつうの井戸でも深いけど、もひとつ深い、

智士百mか、二百m

T うん、そうやって具体的に頭に浮かべてみた？

どのくらいのかかさなか。十間で。

勇也 屋上から下まで。

力 屋上からより、もっと深い。

屋上まで13mやもん。

保 ほや、2年のとき、測った。ひもつけて。

T どれくらいやった？

保 12〜13mぐらいやった。

ここまでに何か感じた人。

晃典「丘の上にあったから、井戸がずいぶん深かった」てかいたるでな、丘の上やで、だいぶん深い。

T そう。そういうふうにも何でも出してください。

美希 十間もあるのだから、だいぶん深い。

T 「も」とは書いてないけど、「十間もある」ような感じがする。

力「井戸がずいぶん深かった」てかいたるやん。井戸というのは、深いやん。ほれやのに、丘の上にある見えん

大輔 出られへん

C 見るだけでもこわい。

T みんな、飛び込み台知ってる？あれ、3〜4 mぐらいの高さでも水面までずいぶんあるように見えるんです。裕幸 ほうよ、あれ、下でみてるより、上からみた方がこわいんやど。

T 10 mの高さだと、もうとても立てない位こわいんですね。プールでさえ、そんなんです。

ほど、みんな、「十間近く」という言葉を具体的に頭にえがいたとき、この井戸がすごい井戸だってことが見えてくるでしょ。

勇也 おそろし！

T で、勇也がいうてるのは、「めずらしい。」

どこの井戸でもそうなんですか？

Cs ちがう。

図で説明

T 屋上からまだもつと上です。そういう高さからずつと下まで見るような深さなんだ。

Cs こわいわあ。

落ちたら死ぬ。

智美 そこに落ちて死んだら死体が浮かん。

Tでは、続きいくぞ。

ふたがないので、お掃除の水を汲むたんびにだれでもちよつとのぞいてみた。

弘子 のぞくのは、井戸がとても深くて、おもしろそ

うで興味がわく。

智士 おんなじ。

うんとな、深いやん。ふつうのやつたら、ちよつと見ても何も思わんけど、学校の井戸やつたら、見たら

「わあつ、落ちたらこわいなあ」て、思える。

T こわかったら、のぞかなきゃいいんだけど、

智士 おもしろいんよ。

T こわいから、おもしろい。

哲郎 中、どんななか、入るのはこわいでいいやん。ほやけど、中見たことないし、そんな深いのもめずらしいで。力 ホラー映画とかあるやん。ほれとかでも、こわいけどおもしろいやん。

裕幸 あんな、この芦原の小学校の井戸はよ、ふつうの井戸より丘の上にあるで、ふかいやん。それだけに

「落ちたらこわいぞ」とかいうてよ、おもしろがってるん。

大輔 暗いさかいよけいこわいの。

力 真ひちゃんが、好奇心とかいうてたで。

T 真ひと言って

真ひと 今までみんなが言ったのほとんどいっしょやで。

好奇心で、こわいものみたくさで、見るん。ほんでな、なんか、ここおちたらこわいかなあ、とか思ってた、見るん。

T こわいのをおもしろがってるんね。

裕幸 きもだめしてもおもしろい。

真人 なんかな、そこから、風がフワアと出てくるみたい。

裕幸 つめたい風が井戸の中からスウィーツと

Cs 口々にいってる

T じゃ、その井戸の中のことが次のところにくわしく書いてあるから、そこで、もう少し詳しく考えましよう。よむぞ。

大きな遠眼鏡でものぞくように、赤土の壁が、丸い筒になって、うすぐらい地の底に消えこんでいた。そして、はるか下の方に、小さい、円い、お盆のような水が、つめたく光って見えていた

大輔 先生の読み方、おぼけみたい。(Cs 笑い)

T はいここから感じることもある人

男ばかりやなあ。

まあ、男の聞いてから女の方に聞こうか。

幸則 はるか下の方にぼつんとある感じやで、気味が悪い。

T 今、幸則の言ったことわかった？

もういっぺん言って。

幸則 ずっと井戸があって、下の方にぼつんと水があるで、なんか、気味が悪い。

Cs 気味が悪い。

和幸 「うす暗い地の底に消えこんでいた」というところやな、ずっとみてたらな、ひきこまれていきそうな感じ。

T 留美、今和幸なんて言ったの。となりにいてたからきこえたやろ。

留美……

T 聞くのが大事な勉強やで。和幸もういっぺん言って

和幸 ひきこまれていきそうな感じ。

裕幸 「うす暗い地の底に消えこんでいた」やでなその井戸をのぞくと、水のところからな、冷たい風が顔に当たってな、不気味そうな感じ。

勇也 ぼくはな、「うす暗いつ地の底に消えこんでいた」てかいたるやん。ほんで、こわい感じがする

T こわいというのは、どこで？

勇也 消えこんでいた。

大輔 はい。「消えこんでいた」やでな、うす暗いやな、あかるかったら、こわくないと思う。うす暗いて書いたるで、寒けがする。

力 ぞくぞくする。

T 大輔のいってることはこういうことか。

井戸が、上から下まで、明るくて、ずっと見えたったら、こわくないんだけど、とちゅうから、暗くなって見えなくなっているから、

智美 なんか気味が悪い。

T このへんの世界が得たいがしれないからね。

和幸 先生、おかしいで。なんで、手でもさわってへんのに、「つめたい」の？

智士 ほら、深いで、さぶそうやだよ。

T 「つめたく光って見えていた。」

今、和幸はさわってもいないのにつて。暢子なせ

暢子……

T まあいいや、残しとこう。女の人の意見を聞こう。智美

智美 「うす暗い地の底に消えこんでいた」でな、自分がすいこまれるみたい。

菜穂子 自分もなんか、井戸の中にすいこまれていくみたい。

志穂 ……

裕幸 先生、「つめたく光って見えていた」てかいたるけどよ、ほんまに見えてるの

真人 なんか、初めて見る水みたい。

勇也 ちやう。下に自分の顔がすいこまれてるみたいに見える。

T 和幸のさわってもいないのに「つめたく」ていうの、どういことなんか、もう少し出して。

佐夜子 さわってもいないけど、ずっと見ていると井戸の中にはいつてるような気持ち。

智士 氷でも見たら、「つめたあ」と思う。それと同じ。

T ここのつめたさはどういいうつめたさ？つめたくて気持ちがいいの？

善崇 うす暗いんやでな、水が冷たいんとちごてな、心がつめたいの。
智士 心がつめたい？

T 善崇もういっぺん言つて

善崇 水をさわつてつめたいんじゃなくてな、心につめたく感じる水。
裕幸 あんな、井戸の上の方とかは見えてるんやろ。ほやけど、下の方になるほどくろうなってるでな、なんか、つめたい感じがする。

力 なんか、うす暗いさかい

貞幸 うすぐろうなってるんやろ。うすぐろうなつていつて、……

T どう、きれいだな、て見えたの？

C いや、不気味

保 まわりが暗いさかい。

T ね。「うす暗い地の……」とつないで、この「つめたく」を読むことがだいじやね。

——【学習後の感想】——

・うす暗い地のところは、あおじろいみたいで、きらきらひかっているのが、こわい。 浩生

・十間のところで、ふかいなあとは、思っていたけどまさか、深いということが、あんなにくわしく感じるとは思わなかった。うすぐらい地の底のところは、授業でするときらに、気味わるく感じた。幸則

・井戸は、ずいぶん深くて、中も暗かった。まわりや中が明るければ、つめたく光っている水がきれいに見えるけど、全体暗い中に、ぼつんとあるから、気持ち悪い。留美

・井戸は、とても深くてぶきみで、でもなんとなく見てみたい気持ちがあふれてきて見てしまう。そして何となくその井戸の中にすいこまれていきそうで、そんな井戸が大好きという感じ。 美豊子

・井戸の中は、のぞいてみるほどさぶげがして、こわくなる。 貞幸

・ふつうだったら、浅くて底も見えるけど、ふかくてみえないから、こわい。

・みんないったけど、うす暗い地の底に消えこんでいたから気味がわるいし、それに、冷たくひかかって見えていたから、ふるえるようなさびしい感じがするとおもいます。だれでものぞいてみたくなる方は、こわいけど、どんなのかな、という気持ちがあるからだということもわかりました。 智子

・今日の勉強でわかったことは、うすぐらい地の底に消えこんでいたのところで、私は、うすぐらいし、すいこまれそうな感じだなあとわかりました。はるか下の方につめたく光って見えていたの場面は、深い井戸の中に、ぼつんと一つ光って致し、つめたく光っていたとは、心の中がつめたくなつていたと思いました

寛子